

2013-B					
拠出金・基金の名称		国際農業研究協議グループ拠出金／国際熱帯農業研究所(IITA)			
種別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)／国際熱帯農業研究所(IITA)					
【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】					
<p>アフリカの食料・栄養不足の改善及び農家・加工業者・消費者の生活水準の向上に貢献するため、アフリカで食料及び換金作物として重要なマメ類及びイモ類の生産性の向上を目指した研究開発及びその普及を支援する。</p>					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成25年度	51,644	630	-	1米ドル = 82円	100
平成24年度	47,039	581	-	1米ドル = 81円	100
平成23年度	57,212	643	-	1米ドル = 89円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】					
<p>2000年に国連総会で採択されたミレニアム開発目標は、2015年までに世界飢餓人口を半減させることを掲げたが、特にサブサハラ・アフリカでは慢性的な食料不足から、栄養不足人口の割合がもっとも高い。また、2011年に開催されたG20農業大臣会合では、いわゆる「孤児作物」といわれるマメ類などに配慮した研究の食料安全保障確保に向けた重要性が強調された宣言が採択された。人口増加に伴う食料需要の急激な増大と、技術開発の遅れによる供給不足による農産物市場の混乱を抑制し、換金作物として貧困削減にも資する現地の伝統的作物であるマメ類・イモ類について生産を持続可能とする技術開発の推進は、我が国の食料安全保障を確立する上でも重要である。</p> <p>IITAは、国際農業研究協議グループ(CGIAR)に属する研究機関であり、アフリカの伝統的な焼畑による移動農耕に代わる持続的な農法を開発し、湿潤及び準湿潤熱帯地帯の農法を改善し、より生産的な土地利用を図るために設立された。従来から邦人専門家が滞在して共同研究を実施し、マメ類やイモ類などの生産性向上に資する成果が生まれている。これら作物の研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展さらには世界の食料供給の安定化に貢献すると考えている。</p> <p>我が国は、(1)IITAが開発したササゲ(マメ類)極早生・高収量品種の種子増産、新品種栽培のための農家の能力向上、更なる収量向上のための品種改良及び、(2)西・中央アフリカにおけるヤムイモの栽培技術の改善や地域に適応した優良系統の選抜による生産性向上のための研究に対し拠出を行っている。</p> <p>これらの事業は拠出に当たり研究計画書・予算計画書等について、事前に当方で確認し、最終的に承認をすることにより、農林水産省としての意見が反映されている。</p> <p>我が国としてもこれらの事業をはじめとしたIITAの取組を高く評価しており、人的貢献を含めて可能な協力を行いたい。</p>					